

デーリー東北

2025年(令和7年)6月11日(水曜日) (12)

島守ブランド 酒造りに

八工大、八戸酒類、市民団体が田植え

八戸

八戸工業大(船崎健一学長)と八戸酒類(橋本八右衛門代表取締役)

役、八戸市の市民団体「ふるさとルネッサンス」(上野大輔代表)は8日、同市南郷島守の水田で田植えを行った。3者が推進するSDGs実践プロジェクトの一環で、栽培したコメは日本酒の原料に活用。地域資源を生かして地元の農業、産業のPRを図る。(上條哲洋)



手作業で水田に苗を植える参加者

3者は2022年から島守地区でコメの栽培を開始。収穫したコメを使って八戸酒類が酒を醸造し、23年から八鶴特別純米酒「しまもり」として販売している。

品種は「まつしぐら」で、22、23年産は無農薬の自然農法で栽培した。24年産からは収量を確保するため、農薬を使う慣行農法で栽培し、酒に使った際の風味や品質、売れ行きを調べる。今年発売する酒は純米吟醸酒となる予定だという。

プロジェクトの責任者である、同大の星野保教授は「栽培を初めて4年目。3者によるブランドをどう構築するか、どうSDGsにつなげていくかを改めて考えたい」と力を込める。

この日は同大の学生や八戸酒類の社員、地域住民ら約30人が集まり、日差しを浴びながら手作業で田植えを行った。

同大学院1年の吉田巧樹さん(22)は「島守のコメを使った酒造りが、もっと多くの人に知られるようになれば」と願う。

上野代表は「コメの不足や価格高騰でコメ作りに注目が集まっている。プロジェクトを通じて農業地域を応援し、不安材料ばかりでなく希望を見いだしていけたら」と話した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。